

## 【 第26回男子世界選手権 】

2019年1月10日～1月27日 開催地:ドイツ、デンマーク

### 試合結果報告 1 月 13 日 ( 日 )

JPN	VS	CRO
<b>13</b>	前半	<b>18</b>
<b>14</b>	後半	<b>17</b>
<b>27</b>	合計	<b>35</b>

#### 個人得点

No.	名前	得点	合計
7	宮崎 大輔	0	0
13	笠原 謙哉	1	1
15	部井久 アダム 勇樹	0	0
16	甲斐 昭人		0
18	成田 幸平	1	1
19	徳田 新之介	6	6
20	渡部 仁	3	3
21	土井 レミイ 杏利	3	3
24	信太 弘樹	2	2
25	元木 博紀	2	2
26	久保 侑生		0
27	玉川 裕康	1	1
29	岡元 竜生	1	1
31	吉野 樹	3	3
33	東江 雄斗	3	3
44	門山 哲也	1	1
			<b>27</b>

#### 戦評

世界選手権グループB、日本の2戦目は過去の世界選手権・オリンピックで優勝経験のあるクロアチアとの対戦。

立ち上がりには日本は、クロアチアディフェンスのプレッシャーからか、積極的に縦に攻めることができず、得点をあげられないところを、26番STRLEKの速攻などで失点を重ねてしまい、10分で1対7と一方的な試合展開となった。タイムアウト後7人攻撃に切り替えた日本は、信太の巧みなパス回しからチャンスを作り、徳田らの得点でリズムを取り戻していった。その後ディフェンスも機能し始め、速攻からノーマークを作ったが、GK55番SEGOに再三阻まれ、13対18の5点のビハインドで前半を終了した。

後半立ち上がりで追い上げたい日本は、東江のカットインで先制、GK16番甲斐が当たり、リズムをつかんでいった。しかし、ここで後半から代わったGK1番STEVANOVICのキーピングに阻まれ、得点できずに逆速攻を許してしまい、10分には14対24と10点差とされてしまった。吉野、門山らの得点で追い上げをはかるも、7番STEPANCICのロングシュート、39番MANDICのサイドシュートなどで点差を詰めることができなかった。終盤土井の活躍により27対35の8点差で終了することができたが、前半、後半ともにスタートの10分が悔やまれる試合であった。

ディフェンスは間を崩されることが少なく、ポストにも対応できたことは収穫であり、攻撃もテンポよく攻めた時はディフェンスを揺さぶっていた。明日はヨーロッパチャンピオン・スペインとの戦いである。勝ち点を取りに行きながらも果敢にチャレンジし、更なる収穫を得たい。

報告記入者 : **舍利弗 学**